

パネルディスカッション 8 企画概要

タイトル	「認知症高齢者の入院時・退院時支援の現状と課題について」
------	------------------------------

概要

認知症を有する高齢者の数は460万人余りで、認知症になる可能性のある軽度者を加えると、65歳の4人に1人が認知症とその予備軍になるといわれている。

認知症の人が可能な限り住み慣れた地域で生活を続けていくためには、地域の各職種が連携して、包括的にケアを提供していくことが不可欠である。

しかしながら、医療と介護の連携が頻繁に必要な認知症高齢者の支援において、多職種の連携は十分に機能しているとはいえない状況があり、特にケアマネジャーによる医療との連携不足が指摘されている。

とりわけ、在宅で生活する認知症の高齢者が病状の悪化や怪我などにより入院治療を余儀なくされた場合、ケアマネジャーが主体となって、入院や退院の際に必要な情報提供を行うなどの連携を図ることが求められているが、実際にはこうした連携が図れずに、認知症の高齢者が生活環境の変化に対応できず不穏状態に陥り、必要な治療が困難になることも珍しくない。

平成24年の介護保険の報酬改定において、入・退院時の医療と介護の連携を促進するため介護報酬上の評価が構築されたところであるが、医療と介護の連携は十分に行えているとは言えない。

このため、在宅で生活する認知症高齢者の入・退院に際しての支援の現状と課題を明らかにするとともに、望ましい支援のあり方について検討を行うため、在宅支援診療所の医師、認知症の家族の会、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー等でシンポジウムを実施する。